

卒業生の保護者等へのアンケート

1 お子様は千歳高等支援学校で学んだことで、卒業してから役に立ったと思うことは何ですか？

・バスや電車で通学できるようになった (33)	15%
・体力がついた (31)	14%
・規則正しい生活が身に付いた (20)	9%
・正確な作業 (仕事) ができるようになった (20)	9%

⇒毎日の通学で身に付けた力が、卒業後の生活に生かされている。

2 現在のお子様に必要な力や課題は何ですか？

○生活面
・金銭管理、お金の使い方 (6)
・生活力、家事や自炊をする力 (5)
・身だしなみ (2)、規則正しい生活・時間の管理 (2)
○コミュニケーション
・周囲の方とコミュニケーションをとること、人間関係 (5)
・自分の気持ちを伝える、困っていることを伝える (4)
・質問や確認 (4)
○理解、判断、行動
・正しい判断 (困ったときに自分で判断できない) (4)
・自己理解 (自分の失敗を認める、自分の実力を現実的に理解する、自分の障がいを理解する) (3)
・自主性、積極性、一人で行動すること、好きなことを見つけて行動すること (4)
○仕事
・応用力をつけること
・集中、ミスをしない
・作業スピード、ペース配分

⇒将来的なことも含めて、金銭管理やお金の使い方が課題と考えている保護者が多い。

⇒家庭、職場などの場面に関わらず、「コミュニケーション」「自己理解・判断、自主性」に関する記述が非常に多い。

3 現在、お子様の生活の場はどこですか？

自宅 (51)	アパートでの一人暮らし (2)	グループホーム (4)
---------	-----------------	-------------

4 将来の生活の場についてどのように考えていますか？

グループホーム (18)	アパートでの一人暮らし (11)	まだ考えていない (11)
--------------	------------------	---------------

5 自宅から離れて暮らす時期はいつ頃を考えていますか？

・本人から訴えがあったとき (10)
・保護者が支援できなくなったとき (8)
・分からない (8)
・本人が30～40歳くらいになったとき (4) /保護者が支援できなくなる前に早めに決めたい (2)

6 保護者が支援できなくなったとき、どなたが支援をしますか？

・グループホームや施設を利用 (27)
・地域のサービスを利用 (17)
・分からない (15)

⇒現状としては、自宅で生活している卒業生が9割程度と大半である。将来的にはグループホームでの生活を考えている保護者が多いが、「まだ将来の生活の場については考えていない」という回答も多い。自宅から離れて暮らし始める時期については、「本人から訴えがあったとき」が一番多く、「保護者が支援できなくなったとき」「分からない」と続いている。また、保護者が支援できなくなってしまう前にグループホーム等での生活という意見も比較的多かった。

7 お子様の仕事や生活、余暇等について、現在困っていることがあれば記入してください。

- ・親、家族としか過ごしていない、家族以外との交流がほとんどない（5）
- ・休日は引きこもっている、あまり出掛けない（4）
- ・友人との交流が少ない、友人と疎遠になっている（2）
- ・趣味や好きなことを見付ける、趣味の幅を広げる、共通の趣味を持つ友人ができるとうい（4）

⇒卒業後、家族以外の人との交流がない、休日は家に引きこもっている、趣味や好きなことが広がらないなど、余暇の過ごし方に関する記述が多い。

8 お子様の将来について、心配なことがあれば記入してください。

- ・親がいなくなったあとの生活、サポートしてくれる人がいるか、自立できるか、困ったときに自分で対処できるか、一人でやっていけるか（10）
- ・金銭面で将来困ることがないか、生活費（4）

⇒親亡き後の生活に関すること（金銭面も含む）が圧倒的に多い。

9 お子様のことについて相談できる場所がありますか？

ある（31） ない（12） どこに相談したらよいか分からない（9）

⇒「ある」と回答した保護者は、各地域の相談室に、仕事に関すること、グループホームに利用や障がい基礎年金の受給などについて相談している。現状では相談事はないが、必要になったときのためにつながりを持っているという保護者もいる。

10 現在、障がい基礎年金を受給していますか？

受給している（32） 受給していない（20）

11 「受給していない」と答えた方は、その理由を教えてください。

- ・20歳になっていない（6）
- ・手続き中、診断書待ち（3）
- ・対象外だから、申請しても却下されると思うから（3）
- ・申請したが無理だった（2）
- ・申請する気持ちがない（2）
- ・手続きがよく分からない、診断書がない（2）

⇒受給していない理由としては、「20歳になっていない」「手続き中」が多いが、「申請しても却下されると思うから」「手続きがよくわからない」などの回答もあった。

分析とまとめ

- ・卒業生の多くは自宅で親と生活しており、将来の生活の場については、「まだ考えていない」という回答も多い。在学中に近い将来、遠い将来の生活をイメージすることは難しいが、卒業後5年～10年後、その先の生活をイメージして、本人・保護者とともに考える機会を設けていくことが必要である。また、生活面のスキルの向上や自立が課題として多く挙げられており、通学型の本校としては、寄宿舎で学ぶことができる生活面の力について、計画的に家庭で身に付けていく必要があることを今後も伝えていきたい。
- ・相談できる場所として、各地域の相談室等とつながりを持っている場合が多く、学校から地域へ移行していくという流れが少しずつ浸透してきているようだ。今後も継続していくことが必要である。
- ・本校としては、今回のアンケートで得た卒業生の保護者等のリアルな声を様々な場面で発信するとともに、卒業生の保護者間のネットワーク作りや最新の情報を共有できる環境づくりなどの取り組みを行えると、困り感を軽減したり解消したりできるのではないかと考える。